

ブライダル列車のSLが、抜里駅で臨時停車



SL列車に乗って結婚式を挙げるカップル



島田市長さんと一緒に



お惣菜づくりと気配りで
元気な町を



あまり欲をかかず、肩肘張らずに、人はどうしたら幸せか、自分だったらどうしたいかと考えていく中でアイデアが浮かび、次の一步を踏み出してみる。そういう生き方も楽しいなと感じています。

高齢者になってもよく働き、よく食べる。1日20品目ぐらいはとり、たくさん声かけして、どなたも孤独にならないように心がける。若い人たちも安心してもらえるような生き方をする。高齢者になっても前向きで責任ある生き方をする。そういう気持ちはとても大切だと思っています。みんなが健康で幸せに生きられるように、これからもお惣菜づくりは気配りを持って続けていきたい、そう考えております。

これで私のお話はおしまいです。皆さん、御清聴ありがとうございました。



皆さん、こんにちは。御紹介いただきました桑名歴史案内人の中根と申します。

私たちの会は、平成25年度に社会参加章を受章いたしました桑名歴史案内人の会と申します。私たちの会は、観光ボランティアガイドとして、桑名の史跡や文化を通して地域の活性化に寄与するということを目的に設立いたしまして、今年で18年目になります。桑名には多くの史跡や文化が残され、格好の観光スポットとなっております。



それでは、私たちの活動と高齢化対策についての事例を説明させていただきます。

私たちの会は平成10年4月1日に発足いたしました。本年度は新会員を含めて62名で活動いたしておりますが、昨年度の案内実績につきましては当時会員45名でございまして、年間約1万3,000人のお客様を御案内いたしております。ちょうど一昨年になりますので、当時は伊勢神宮の式年遷宮という年になりまして、そのときには1万7,000人ほどのお客様を御案内いたしました。昨年度はその反動からか4,000人ほど減らして1万3,000人ということになりました。

平均年齢が70歳ということで、65歳の高齢者が占める割合は84%になってきております。体力的に長距離の案内は無理とか、あるいは段差が多いところは無理とか言われるように、会員に対してもいろいろ高齢化に対する体力的な問題が出てきております。そのような人に対して、いかに我々の活動をしていただくか。まだ頭がはっきりしておるのに体力的にちょっと無理やなど、こういうような方もたくさんみえますので、そういうような方をいかにして活動していただくかというのも私たちの取組の1つでございます。

具体的な対策としまして、案内を主とする者と、それから会員のレベルアップにつながる者に区分されますが、ここでは昨年度の案内実績をもとに説明させていただきます。

初めに、申込案内でございますが、これは観光案内所に申込まれたお客様を対象にして案内するもので、年間約6,000人のお客様を御案内いたしております。中には高齢の方が多くみえまして、歩くのはゆっくりととか、車で回りたいとか、そういうような要望もございます。

次の六華苑常駐案内でございますが、明治に山林王と呼ばれました初代諸戸清六を継いだ2代目の諸戸清六の邸宅でございまして、鹿鳴館などを手がけましたジョサイア・コンドルが設計し、国の重要文化財であります現在の六華苑に常駐して、来苑されたお客様を御案内いたしております。県外からのお客様も多く、年間およそ5,000人を超えるお客様を御案内しております。そのうち、年間4、5回は100名を超える団体もございます。

次の企画案内につきましては、会の組織であります企画事業部で立案し、市の広報やタウン誌などで一般募集を行い、応募された方を御案内する「案内人と歩こうシリーズ」として年2回実施しております。市内外から多くの参加申込みがありますので、昨年はおおよそ200名を案内いたしました。

また、私たちが受章した平成25年は伊勢神宮の式年遷宮の年でもありましたが、その2年後の今年になりますが、5月31日には慣例によりまして内宮宇治橋の鳥居が下賜されて、今まで過去に例のない盛大なお木曳き行事の後、一の鳥居が建てかえられました。それにあわせて企画案内を行い、全国から応募のあった多くのお客様を御案内いたしました。

余談ではございますが、七里の渡しの鳥居は当初は外宮の正殿の棟持柱で、その20年後の遷宮を経て内宮宇治橋の西の鳥居、一番最初の鳥居でございますが、それになり、次にさらに20年後の遷宮を経まして七里の渡しの鳥居となるというように定められております。

次に、船上案内でございます。これは国とか県、あるいは市の行政から依頼されて行う案内の1つで、ここでは水郷船めぐりを取り上げました。桑名是水郷のまちでもあります。行政からの要請によりまして、春、秋の行楽シーズンに船乗り場まで出向いて乗船し、案内しております。桜や国の近代化遺産を眺めながらの案内は、子供たちには体験を通して学習の場ともなり、お客様ばかりでなく私たちも楽しく案内しております。その他、行政や学校、各種団体、テレビ、雑誌の取材など、要請案内は年々増え、昨年度は7回、およそ2,000人の方を御案内いたしました。

次に、出前講座でございます。これは地区のセンター行事の一環として定期的に行うものと、臨時に要請されて行う講座がございます。定期的なものは年間5、6回、臨時のものは年間2、3回あり、多くは高齢者を対象としたものに依頼されます。テーマは、講師となる人の自由の場合とテーマが決められた場合に分かれます。定期的なものはその都度担当者を交代し、一人でも多くの案内人が講師となり、地区の活性化に寄与できればと考えております。今後このような講座を増やし、体力的に無理のない高齢者の活躍の場として増やしていきたいと考えております。

続きまして、新人研修であります。これは毎年行うのではなく、会員に不足を生じたときに随時行っており、昨年度は18名の方が研修を終えられ、引き続き新人を対象とした研修を続けております。研修は知識の向上ばかりでなく、案内のマナーやおもてなしの心を持って案内するよう指導しております。やはりここでも新人と言っても高齢の方が多く、会員が生きがいを持って活躍できる高齢者対策は早急の課題となってきております。

最後に、案内マップの作製であります。行政等が作製するマップとは異なり、案内の面から見たややマニアックな案内マップを、桑名市の社会福祉協議会助成金などを活用して作製し、今まで3種類、増刷を含めて4回発行しており、案内時の活用やお客様の要望によりお渡しして好評を得ております。以上が案内関係を主に説明してまいりましたが、ほかにも会員のレベルアップとして、市や会が主催する講座や、あるいは研修旅行をはじめとして会の季刊紙を年2回発行し、体験や学習の発表の場としております。さらに、タイムリーなテーマで自由参加の講座などを行い、知識の向上と親睦を図っております。

私たちの会は、桑名市内全ての地区へお客様のニーズに応じて案内するため、平素からの学習や現地研修は欠かせません。しかし、会員も高齢の方が増え、体力的に長距離の案内とか、あるいは段差等の多い案内は無理と言われる会員に対して、先ほど説明いたしました出前講座や六華苑の常駐、あるいは六華苑に対するお申込みのお客様を案内するようところに高齢者の方を配置いたしました。あるいは地域のイベントに参加して培ってきた知識やあるいはスキルを発揮できる場を増やしていき、観光ボランティアを楽しみながらエイジレスの生活に生きがいを感じる会として精進していきたいと、このように考えております。

幸い今後常駐できる場所が増えることも予想されております。現在私たちは行政や市民の皆さんの御支援をいただき、社会に貢献できることを喜びとして充実した会運営を行っております。元気なお年寄りが年を感じず、大きな声で町なかを御案内いたします。皆様方もぜひ桑名にお訪ねください。お待ちしております。

以上をもちまして、私たちの活動と会員の高齢化に対する取組について報告を終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。